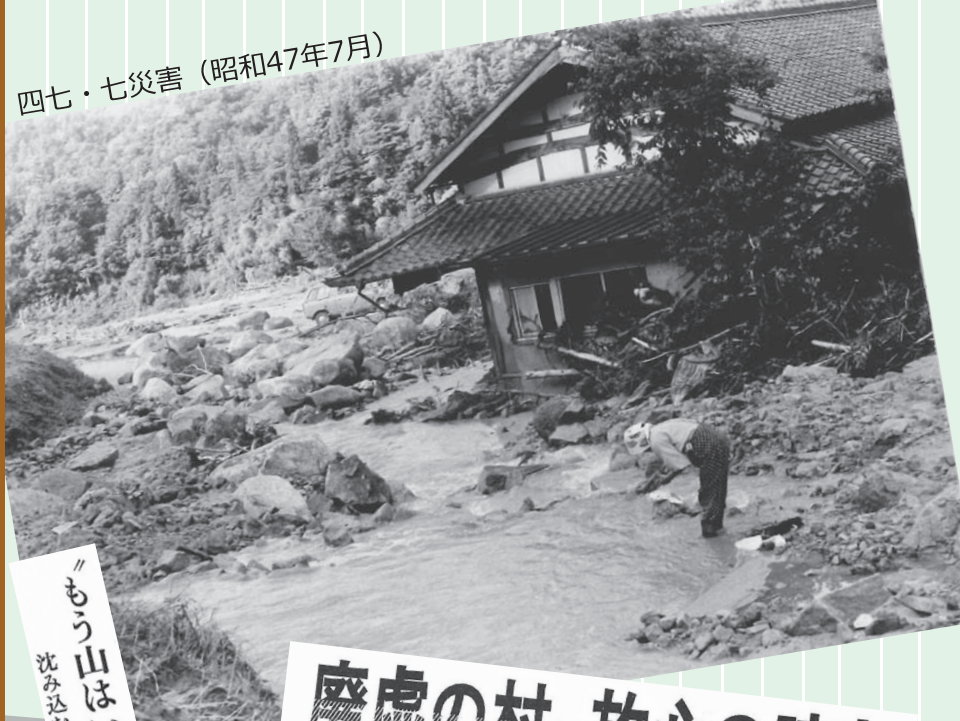


豊田市 郷土資料館だより

No.101

四七・七災害 (昭和47年7月)



「もう山はいやだ」
沈み込む藤岡の被災者

廃虚の村…放心の暗夜

豪雨禍の西三河・小原、藤岡に行く



東海豪雨 (平成12年9月)

さあ復旧だ！愛と協力でいばらの道を切り開こう



飯野小よい子たちの
汗の義援金

秋の一日を災害の肩休めに —香嵐溪のもみじ祭へ—

待月橋や香嵐橋(つり橋)を始め、バンガロー、便所などの施設を伊勢湾台風のゲイセイとしたが香嵐溪も、モミジは川岸のものを流しただけで残ったモミジは台風の被害も知らぬげに色づき始めた。待月橋も応急に仮橋がかけられ荒らされた道路遊園地も地元や業者の奉仕で整えられ、11月1日、30日香嵐溪もみじ祭を催します。行事もお祭さわぎにならぬよう健全な、少しでも労苦を忘れることができるようにと計画しました。

災害疲れや忙しかった秋の収穫の肩休めに、荒れた気持のうらおいに、お家族づれで秋の一日を楽しむよう、ぜひお出掛け下さい。

目次

- 企画展「みんなであつめた災害の記憶
—江戸時代から現代まで—」 2
- 平成29年度 文化財保護事業報告 3
- 平成29年度 郷土資料館事業報告 4
- とよた歴史マイスター活動報告 5
- 前田公園のモニュメント跡 6
- 平成30年度 特別展準備レポート①
～川で魚をとる！広瀬やなの場合～ 7
- 足助の商家・民具調査報告書発刊！ 8

みんなであつめた 災害の記憶 —江戸時代から現代まで—

会期：7月14日(土)～9月24日(月・祝)

河川の氾濫や地震は、地球にとって“自然な出来事”であり、その時、その場所にいた人が被害を受けて、はじめて災害と呼ばれるようになります。そのため、災害について語るには、そこにいた人の記憶を探し、記録に留めることが重要です。そして、その記憶は、同じ災害を経験していても、その人のいた場所や状況によって異なります。今回の企画展では、『何軒の被害があつて、何人の犠牲者がいた』という「記録」の羅列ではなく、その災害を経験した人の思いが感じられる「記憶」を集めました。現代の災害については「わたしの記憶」として経験者から聞いた話を、江戸時代の災害については「文字に残された記憶」として古文書や絵図を紹介します。

豊田市域の災害

矢作川は、市域に豊かな恵みをもたらす一方で、度重なる洪水を引き起こしてきました。江戸時代には、堤防の高さをめぐって兩岸の村が争い、洪水によって流路が変わると村の境界をめぐる争いにもなりました。洪水を避けて、高台に移転した村もあり、内藤家の挙母城（別名：桜城）も完成を見ずに、現在、豊田市美術館がある高台への移転を余儀なくされました。

近年にも大きな災害がありました。昭和34年（1959）の伊勢湾台風では、暴風が家を破壊し、昭和47年（1972）の四七・七災害は、中日新聞の1面に「廃虚の村…放心の暗夜」（昭和47年7月14日朝刊）と大きく報じられるほど、小原・藤岡地区などに甚大な被害をもたらしました。



川境争論裁許絵図 天和2年（1682）



中日新聞 昭和47年7月14日朝刊

とよた歴史マイスターとの共働事業

今回の企画展のための調査は、とよた歴史マイスターとともに行いました。伊勢湾台風や四七・七災害についての新聞記事を集め、自身の経験談を語り合い、記録するとともに、四七・七災害を経験された方のもとへ聞き取り調査に行きました。

特に大量の新聞記事の調査などは、とよた歴史マイスターの力があってこそ成し得たものです。このよう



とよた歴史マイスターによる新聞記事の調査

に市民の方と協力して展示を行うという試みは、現在計画している新博物館でも継続、拡大していきたいと考えています。

会期中は、とよた歴史マイスターの展示解説と共に、来館された皆さん自身の経験を「災害の記憶」として収集・掲示させていただきます。今回の企画展は、会期中にもどんどん情報が集まり、成長していく展示です。

（山田佳美）

平成29年度 文化財保護事業報告

1 文化財保護審議会 4回

文化財指定の答申「守綱寺本堂障壁画」「桶茶道具」
豊田市歴史文化基本構想の諮問・答申
文化財防火デー：平勝寺・六鹿会館・又日亭

2 伝統的建造物群保存地区保存審議会 2回

3 埋蔵文化財保護の概要

○有無の照会・届出

埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の有無照会は865件で、過年度に比べ大きく減少しました（平成27年度1,323件、平成28年度1,321件）。一方、遺跡内での開発の届出・通知は、民間108件・公共32件で、前年度に比べやや減少しました（平成27年度132件、平成28年度154件）。

○調査

確認調査・試掘調査などを12件、本調査を2件実施しました（表）。

表 本調査を実施した遺跡一覧

遺跡名 (所在地)	調査原因	調査面積 (㎡)	主な遺構
花本遺跡(花本町)	宅地造成	2,811	溝
寺部遺跡 17A-C、F区 (上野町・寺部町)	区画整理	4,700	土坑・溝・ 竪穴建物跡

○発掘調査報告書刊

第74集『京町遺跡・郷上遺跡』（1,400円）
第75集『豊田大塚古墳Ⅲ』（700円）
第76集『根川1・2号墳』（1,100円）
第77集『寺部遺跡Ⅷ』（1,200円）
『平成28年度市内遺跡発掘調査事業概要報告書』



4 文化財等保存維持・修理補助事業

- ・有形・有形民俗文化財保存修理 4件
(木造千手観音菩薩立像ほか)
- ・史跡名勝天然記念物保存整備 1件
(大林のヤマザクラ)
- ・建造物修理 1件(葺屋岡本家)
- ・有形民俗文化財保存維持 16団体
(中町拳母まつり山車保存会ほか)
- ・無形民俗文化財保存維持 29団体
(中町拳母祭祭囃子保存会ほか)
- ・伝統的郷土芸能保存維持 21団体
(配津町祭り囃子保存会ほか)
- ・伝統的郷土芸能保存修理 3団体
(足助西町お囃子会ほか)
- ・郷土の先人顕彰活動 4団体
(松平親氏公顕彰会ほか)

5 史跡・名勝・建造物等整備・修理

- ・村上家千巻舎屋根修繕
- ・足助城の園路(柵列)修繕

6 民俗芸能普及推進

- ・民俗芸能記録
(とよたの祭事記録「豊田市の花のとう(おためし)」)
- ・歌舞伎伝承館開館記念五月公演 5月28日開催
入場者数 1,000人



7 計画等策定

- ・豊田市新博物館基本計画策定(平成30年度継続)
- ・豊田市歴史文化基本構想策定
- ・旧龍性院庭園保存活用計画策定(平成30年度継続)

8 その他

- ・二ホンカモシカ滅失対応 37件

平成29年度 郷土資料館事業報告

1 展示・入館者数

平成29年度入館者数 15,140人

- ・企画展「とよたの芸者さん」(7/8～9/3) 2,968人
- ・特別展「ぼくらの“1967” - 50年前のとよた・日本・世界 -」(9/30～12/3) 3,952人

とよた歴史マイスターも関わり、資料の整理や展示作業を行いました。また、延べ224人のマイスターが、期間中展示解説を行いました。

- ・企画展「古い道具と昔の暮らし 大唐箕展」(12/16～3/4) 3,316人



2 資料調査

- ・旧鈴木家住宅古文書調査／市内各地民具調査
- ・旧田口家住宅民具調査報告書『萬屋 その暮らしと商いの道具』(1,700円) 刊行

3 資料貸出

- ・他館などへの資料貸出し(写真含む) 219件

4 講座ほか

- ・「まが玉づくり」「篠笛づくり」各1回／297人
- ・子ども向け体験企画
長期休暇期間にあわせ 3回
春839人／夏2,546人／冬743人
- ・よろいを着てみよう 1回／359人
- ・ギャラリートーク 10回／284人
- ・史跡めぐり 1回／23人
- ・子ども向け Web 版「とよた歴史検定」
1回更新 アクセス件数268件

5 とよた歴史マイスター活動

認定者102人 活動参加者数 延べ625人



6 郷土学習スクールサポート

延べ207校／14,717人の小中学生が利用
とよた歴史マイスターの活動65件(延べ156人)

7 近代の産業とくらし発見館

平成29年度入館者数 14,811人

- ・ミニ企画展
「まゆまつり2017～養蚕がさかんだった頃～」(4/25～7/2) 2,450人
- ・企画展
「とよたの製瓦業～いぶしの輝き～」(7/25～10/1) 2,403人
- ・企画展
「一街中から覗く一今のとよた、昔のとよた」(11/21～2/25) 6,622人
- ・展覧会ギャラリートーク 7回
- ・ものづくり講座：「まゆの花かざり」など
- ・見学会：「養蚕農家を訪ねて」など 2回
- ・ぶらコロモ：年4回開催
(名木めぐり編、路地めぐり編、鬼瓦めぐり編、KITARAのあたりを歩いてきたら)



とよた歴史マイスター活動報告

「とよた歴史マイスター」が活動し始めて3年が経過しました。現在、92名（平成30年5月末時点）の方が豊田市の歴史・文化財について学び、伝える活動を行っています。

展示ガイドグループ

来館者に郷土資料館の常設展や企画展などの案内を行っています。平成29年度は、特別展「ぼくらの“1967”-50年前のとよた・日本・世界-」の展示案内を、ほぼ毎日とよた歴史マイスターが常駐して行いました。



スクールサポートグループ

小学3年生の「古い道具と昔の暮らし」の授業など、小中学校への出前授業・遺跡見学・資料館見学サポートを行っています。



企画展プロジェクトグループ

郷土資料館の企画展開催に必要な調査や運営などに関わっています。平成30年度は企画展「みんなであつめた災害の記憶—江戸時代から現代まで—」に、とよた歴史マイスター15名が参加しています。会期中は展示ガイドも行います。



その他にも、講座手伝い・豊田市郷土資料館だよりの原稿執筆・新博物館PRイベントサポート・自主活動など、多方面に活躍しています！とよた歴史マイスターは毎年募集していますので、興味がある方はぜひ、郷土資料館にお声かけください。

名鉄平戸橋駅から北東に15分歩くと、小高く広大な前田公園があります。この公園は、郷土の偉人・前田栄次郎氏(1874～1961)が故郷の発展を祈り、私財を投じて昭和7年(1932)より数年かけて整備した公園です。栄次郎氏は幼少の頃、この山で薪を拾い家計を助け、やがて帝都東京で土木建築業を営みました。一代で莫大な富を成しても、内に蓄財せず社会還元に努め、故郷に膨大な寄付・寄進を行いました。

この公園に設置されている各種モニュメントを見ると、栄次郎氏の郷土への思いと当時の世相、そして太平洋戦争(1941～1945)のつめ跡を多々見ることができます。山頂の南西に「預言の逆さ塔」があります【写真1】。石造りの下側が細く上側が広い不安定なこの塔は、昭和初期の世相を風刺したものです。昭和6年(1931)の「満州事変」に始まり、昭和7年(1932)の「五・一五事件」など軍部の乱行が政治にまで広がり、思想の弾圧・人心の圧迫など上層指導部の権力が増大し市民の意見は小さいものでした。そんな社会はいつか倒れると預言し、この塔をつくりました。恐れていた通り、のちに軍部主導で太平洋戦争に突入し、計りしれない多くの犠牲と悲しみを出してしまいました。

公園の麓の西側に「祖先感謝の碑」【写真2】があります。これは何人も祖先・先人の弛まざる努力により、今日を迎えられているという感謝と平和への思いを込めてつくられました。中央入口階段を上がる途中東側には「信託寄付記念竇槌の碑」跡【写真3】があります。栄次郎氏は、昭和9年(1934)猿投村に村民税無税で村運営が出来る理想をかかげて、当時の金額で2万円を信託契約して提供しました。これは、それを記念した碑でした。しかし今は、コンクリートの土台しか残っていません。元々

はこの上に銅製の米俵と竇槌があり、将来の盤石を感じるものでした。階段をさらに上がると左側に大山巖元帥(1842～1916)、右側に東郷平八郎元帥(1847～1934)の銅像跡があります。日露戦争(1904～1905)で大山巖元帥は満州軍総司令官として、東郷平八郎元帥は連合艦隊の司令官として、当時の国策富国強兵の象徴・立役者であり日本人の誰もが知る国民の英雄でした。軍部主導で始まった太平洋戦争は、次第に戦局不利が各戦線に生じます。国は、それを見透かしていたかの様に「国家総動員法」を昭和13年(1938)に制定し、赤紙(召集令状)一枚で国民を戦地に赴かせ、また、一般家庭から神社・お寺まで強制的に金属を供出させました。前田公園からも、先に紹介した「祖先感謝の碑」や「竇槌の碑」から銅製の物や銘板などが無残にも剥ぎ取られていきました。また、両元帥の銅像も持ち出され、皮肉にも戦で英雄と成った人物の像は、形と目的を変え虚しい武器や弾丸となり、戦地に消えていったのです。これらモニュメントの跡などと共に、戦争は多くの前途ある若者の未来を奪いました。

戦後の平和は、眼下に見える矢作川の流れの如く、穏やかに70余年続いています。失われたモニュメントが何だったのか知る人も少なくなりました。しかし敢えてこのまま復元しないことで、戦争の愚かさ儚さを後世に伝えることができます。栄次郎氏も天国で平和が続くことを望んでいるでしょう。現在、入口から山頂まで101段の階段は、戦争を知らない若者や学生のスポーツの練習にも活用されています。この階段を駆け上がり、やがてこの地から世界に羽ばたくアスリートが誕生し、スポーツを通じて平和の尊さを伝える使者となることを願います。

(とよた歴史マイスター 田内 三男)

【写真1】 預言の逆さ塔



昭和初期の世相を風刺した塔

【写真2】 祖先感謝の碑



金属の供出で銅製の銘板を失う

【写真3】 信託寄付記念竇槌の碑跡



金属の供出で銅製の米俵と竇槌を失う

～ 川で魚をとる！ 広瀬やなの場合 ～

豊田市の中心を流れる矢作川。年明けから開催予定の郷土資料館特別展（会期：1月19日～3月24日）では、矢作川や逢妻男・女川などを中心に、豊田市内の「川」と「自然資源」「人々の暮らし」にスポットを当てて、展覧会を開催しようと考えています。今回は、特別展に向けての準備レポートとして、豊田市内の川について調べたことや、開催にあたって調査したことなどを紹介します。

豊田市内の主要な河川

豊田市内を流れる川は、大きく矢作川水系と境川水系に分けることができます。一級河川である矢作川は、一説には長



矢作川の支流・大野瀬川（稲武地区）

野県下伊那郡平谷村の大川入山（標高1,908m）に源を発するとされる、延長117kmの三河地方第一の河川です。市域中央を流れ、古くから水運や農業用水、工業用水などとして人々の暮らしを支え、地域に大きな恵みをもたらしてきました。一方、市城南西部には、境川水系に属する逢妻男川・逢妻女川、猿渡川が流れています。これらの川は、矢作川水系が三河湾に流入するのに対して、衣浦湾に流入します。

矢作川で魚をとる

矢作川にすむ魚類は、およそ70種類にのぼると言われていますが、矢作川といえば、これからの季節はやっぱりアユ！



アユ釣りの様子（旭地区）

矢作川でとれるアユは、江戸時代には塩漬けにして幕府へ献上されていた名産品でした。今でも、地元のお祭りの屋台では、焼いたアユを販売するお店があるほどで、市域の人々に親しまれ続けている魚ではないでしょうか。

5月にアユ釣りが解禁されると、矢作川には釣

り人が多く訪れ、初夏から秋にかけて楽しめます。アユをとる方法として、一番ポピュラーなのは、釣竿を使った友釣りですが、他にも仕掛け針を使う「ガリ」と呼ばれる釣り方、大規模なものでは川にヤナ（築）を設置する築漁など、多様な方法が知られています。



用途に合わせて太さを変えて竹を割ります。

さて、矢作川水系では、現在でも毎年夏から秋にかけてヤナが設置される所があり、アユをとったり、その場でアユ料理を楽しむことができます。

現在、市内の矢作川本流では、3か所（小渡、下川口、西広瀬）でヤナが架設されています。その中でも、広瀬やなは昭和4年（1929）からはじめられ、現在は広瀬やな組合によって運営されています。

先日、西広瀬町にあるヤナの準備を見に行かせていただきました。調査にうかがった5月中旬は、ヤナを作

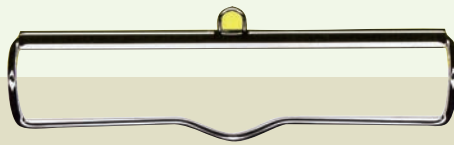


約1時間かけてカゴを編んでいきます。

るため、土台となる竹のカゴを製作しているところでした。広瀬やなでは、毎年、ヤナのために竹を切るところから作業を始めます。自分の背よりも高いカゴを編んでいく様子にとっても驚きながら、聞き取りなどを行いました。この「大きなカゴ」がどのように使われるのか、どのようにヤナが作られていくのか…次号をお待ちください！



完成したカゴ



足助の商家・民具調査報告書発刊！

『旧田口家住宅民具調査報告書／**萬屋**』その暮らしと商いの道具』

平成27年3月に刊行した『重要文化財／旧鈴木家住宅民具調査報告書「商家・旧紙屋鈴木家の暮らしと商いの道具」』に続き同じく足助の商家である、『旧田口家住宅民具調査報告書』を発刊しました。

旧田口家は屋号を「萬屋(よろづや)」と言い、屋号が示すように様々な品を扱う商家でした。江戸から明治中頃にかけては製茶業を営んでおり、その後、製茶業を営みながら菜種油・金物雑貨・肥料・製油・ガソリンなどの販売を行ってきました。旧田口家住宅には、製茶業や石油販売業を営んでいた当時に使用された茶壺や製茶の道具、石油販売に関わる写真や図面、看板などが数多く遺されています。

報告書では生業にまつわる道具類を中心に、日常の道具類や煎茶・抹茶に関わる道具、戦中・戦後の暮らしのようすを表している印刷物なども含め、詳解ページで解説をしています。

また、旧田口家より寄贈された3,800点の道具すべてを、衣・食・住・生業などの分類項目別に、調査登録民具一覧写真インデックスとして掲載すると共に、調査登録民具索引を設けています。



A-4 変形 269×210 mm (1,700 円)



詳解ページ例

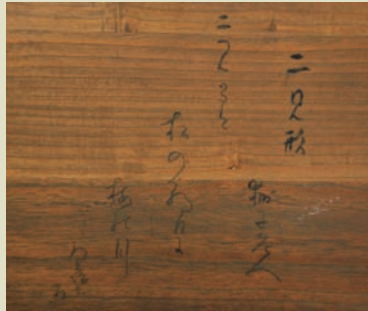


詳解ページ例



二見型文台 | ふたみがたぶんだい W570 H117 D323

俳諧の宗匠となることを「立机(りっき)」と言い、その証となる持ち物が文台です。俳諧興行の際、執筆の前に据え、懐紙を置いて用います。



鏡板の裏面には句が書かれています。獅子庵(各務支考)の句。盧元坊(ろげんぼう)：里紅(りこう)とも。1688～1747年。

■豊田市郷土資料館利用案内■

- 開館時間 午前9時～午後5時
- 休館日 毎週月曜日(祝祭日は開館)
- 入館料 無料(特別展開催中は有料)
- 交通案内 名鉄「梅坪駅」より南へ 徒歩 10分
名鉄「豊田市駅」より北へ 徒歩 15分
愛知環状線「新豊田駅」より 徒歩 15分
とよたおいでんバス「陣中町一丁目」より西へ 徒歩 5分
- 駐車場 約20台

●豊田市郷土資料館だより No.101

- 平成30年7月10日発行
- 編集・発行 豊田市郷土資料館
- 〒471-0079 豊田市陣中町1-21-2
- TEL.0565-32-6561 FAX.0565-34-0095
- E-mail ● rekihaku@city.toyota.aichi.jp
- URL ● http://www.toyota-rekihaku.com
- FB ● http://facebook.com/toyotarekihaku

※豊田市郷土資料館だよりは、HPでもご覧いただけます。